



特集 歴史と文化の道

「鹿児島島の息吹を感じながら歩く」

県立博物館から私学校跡までの国道10号沿いの「歴史と文化の道」は、ガス灯が設置され、石垣やお堀、錦鯉の泳ぐ水路などが調和して、落ち着いた景観を作り出しています。今回の特集は、広報紙編集サポーターの皆さんと一緒に、この「歴史と文化の道」の知っているようで意外と知らないスポットや魅力をご紹介します。

歴史を伝える道



～古地図の街並みが現代に息づく～



鹿児島市立美術館蔵「鹿児島城下絵図屏風」(部分)

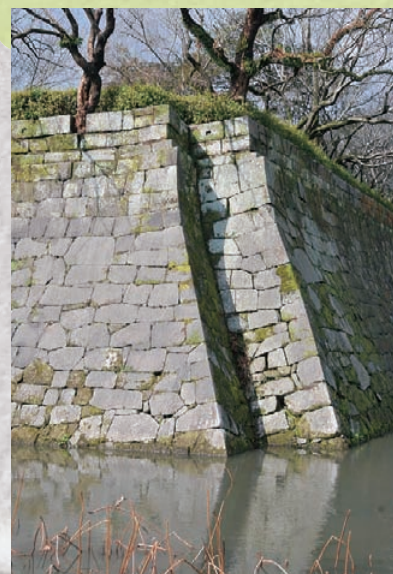
鹿児島城(鶴丸城)は慶長7(1602)年に、島津家第18代当主家久が築いた天守閣のない屋形造りの平城でした。明治6(1873)年に本丸が焼失、さらに明治10(1877)年、西南戦争で二之丸も焼失してしまいました。

華美な天守閣もなく、77万石とも言われる大藩の居城にしては、小さく質素な感じもありますが、薩摩は「人をもって城となす」という精神に基づいて、地方の各郷に郷士を配置して敵から守るという方法をとっていました。背後の山(城山)と一体化している天然の要塞で、鶴が翼を広げた形から鶴丸城と呼ばれるようになりました。

現在、本丸跡には明治100年を記念して造られた県歴史資料センター黎明館があり、二之丸跡には県立図書館、市立美術館、県立博物館などが建っています。

鬼門とされる北東方向の城壁は、石垣の角がくぼんでいます。

これは「隅欠き」とも呼ばれ「鬼の角を取る」ことにちなんだものです。



歴史の道 ～島津700年の

島津氏の居城だった鶴丸城。その城跡を中心に、鹿児島のシンボルである西郷銅像をはじめ、天璋院像や二之丸の庭園であった探勝園など、周辺に意外と知られていない多くの名所・旧跡が残るこの道は、まさに鹿児島の歴史を探访できる“歴史の道”です。



県歴史資料センター黎明館の前庭には天璋院(篤姫)像があります。

制作は本市の彫刻家で文化勲章受章者の中村晋也氏です。



島津久光像

二之丸庭園であった探勝園には、島津斉彬像、島津久光像、島津忠義像の3つの像があるほか、安政4(1857)年に斉彬が本丸と電信の実験を行った電信使用の地の碑が建っています。



西郷隆盛銅像の裏手、市立美術館の一角に「ジメサア」と呼ばれる化粧をした石像があります。

江戸時代に鶴丸城二之丸にあったという島津家第18代当主家久の夫人「持明院様」の石像と結びつけて、「ジメサア」の像であると言われるようになりました。

一説には、容姿には恵まれなかったと言われていますが、心優しい人柄が多くの人々から慕われ、毎年命日にあたる10月5日に化粧直しが行われています。